

## 第一回 在宅ホスピスを語る会（H27. 1. 17（土）） まとめ

於：東区保健福祉センター、参加者：82名

### ① 発表内容：

A・伊藤大樹（あおばクリニック）我々が主催する「在宅ホスピスを語る会」の趣旨について：

自宅で看取ることのみを勧めているのではなく、少しの時間でも自宅療養ができたことに意味があると主催者は考えていること、近代ホスピス緩和ケアのパイオニアであるメアリー・エイケンヘッド、マザーテレサ、シシリー・サンダース、エリザベス・キューブラー・ロスの4人の女性の紹介、「夜と霧」の著者であるヴィクトール・フランクルが唱えた「意味への意志」について解説があった。我々が目指している在宅医療の進む方向を示唆された。

B・在宅介護を経験された御遺族3人による体験発表が行われた。

・A氏

義理の父親を病院で、自分の父親を自宅で看病された経験から、どんな形でも悔いのない介護ができれば、達成感を得ることができる事を発表された。看病が人と人のつながりを強化してくれ、自分の生きてゆく意味を見出させてくれることに気づかされたと言われる。

・B氏

母親を自宅で看病されたが、最後は緩和病棟での最期であった。母親を看取することを予想したエネルギーが、自分の生を継続する力になったことを語られる。

・C氏

人生の指導者であった母親について、そして最後まで気丈であった母親の介護に携われたことの喜び、母親の介護を通して自分の今後の人生の方向が示されたことを語られる。

### ② 反省会：

・県の事業を引き受けた当初、会の趣旨をどのように設定するのか悩んだが、在宅介護経験者へのグリーンケア・病院関係者や市民に対する在宅ケアの啓蒙の2つを目的として取り組んだ。この会を終えて、もっともグリーンケア・癒しを得たのは私たち在宅ケア従事者であるという逆説を実感した。

・会の情宣が遅れたが、多くの方が来られてよかった。

保健所から、メーリングリストに載せてもらったり、ケアマネ会・訪問看護連絡会や、病院連携室（九大・和自・原土井・たたら）に呼びかけてもらい、ネットワークだけではできない貴重な役割を担っていただき感謝している。

・あおばクリニックは、過去3年ぐらいの該当遺族の方々に、案内文を送った。

今後は、ネットワーク参加者の事業所全てが、最期を支援した利用者名簿を作って案内状を送ってはどうか。

・ご遺族の中には、自分の体験談を話したい、という思いの方が多くおられるのがわかった。

・ご遺族のスピーチは、心打つものが多く、みんなしっかり聞いていた。良かった。

・会場のレイアウトは良かった。

・当日、レジメを作成して配布しなかったため、会の進行がわかりにくかった。

口頭でも、わかりやすく、知らせた方がよかった。

・バイオリン演奏が終わると、全て終了してしまった雰囲気になり、その後に予定していた自由に語る時間を上手く会場に説明できなかった。

・バイオリン演奏は、会場が和やかになり、良かった。

・コーヒーやお菓子を準備したが、自由に取りに来られる方が多く、今後も続けたがよい。

・今後も、東区在宅ケアネットワークで実行委員を決めて、保健福祉センターと一緒に開催したい。拡大世話人会で協議したのは一回のみであったが、会の内容を最低もう一回は検討・協議してもらうのが良い。

・今回はアンケートをとらなかったが、次回は準備しよう。

・全体的に、1回目としては、良かった。

以上、「なごみ訪問看護ステーション」の樋口さんの報告をもとに「伊藤新一郎」の責任で掲載。